

第87期 中間事業のご報告

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで

株主メモ

■ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
■ 定時株主総会 毎年6月開催
■ 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日
 そのほか必要があるときは、
 あらかじめ公告して定めた日
■ 株主名簿管理および 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社
■ 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎0120-176-417
 (インターネットホームページURL)
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

■ 単元株式数 1,000株
■ 公告方法 電子公告
 当社のホームページ
 〈<http://www.tatsuta.co.jp>〉に
 掲載する。
 ただし、事故その他やむを得ない
 事由によって電子公告による
 公告をすることができない場合
 は、日本経済新聞に掲載して行
 う。
■ 上場証券取引所 東京、大阪

株主の皆様へ



代表取締役会長

代表取締役社長

藤江修也

木村政信

【営業の概況】

当中間期（第1および第2四半期）における我が国経済は、欧米諸国における金融不安や雇用情勢の悪化に伴う景気低迷の局面の中、輸出の増加や自動車・家電に対する政府の購入支援策等の経済対策の効果により、一部の業種において若干の回復傾向が見られましたが、消費および民間設備投資が低迷し、また、雇用情勢等は依然低水準のままであり、さらには期後半には円高が進行する等、極めて厳しい状況で推移しました。

この間における我が国の銅電線需要量は、電機、自動車向けについては回復基調にあり、電力向けも比較的堅調であったものの、建設・電販向け需要が引き続き厳しい状況で推移したため、極めて低調であった前年同期に比べ若干の増加にとどまりました。また、光ファイバケーブルの需要量については、主として中国向け等の輸出が増加した結果、前年同期に比べやや増加しております。

このような環境下において、当社グループは引き続き効率的な生産・販売活動を推進し、事業運営全般にわたる競争力の強化に取り組むなど、鋭意業績の維持向上に努めてまいりました。

その結果、連結売上高は、前年同期比20.9%増の198億8千5百万円となり、連結経常利益は前年同期比135.6%増の9億3千2百万円となりましたが、連結中間純利益は特別損失の計上を余儀なくされた結果、前年同期比7.9%増の4億3百万円にとどまりました。

電線・ケーブル事業

光ファイバケーブルは、主要需要先である通信会社における受注増の結果、売上高が増加いたしました。銅電線については、電力会社向け需要は比較的堅調に推移しましたが、建設・電販向けの不振が続いたため、販売量は低迷いたしました。その一方で、原材料の銅価格が前年同期に比べ上昇したため、売上高は若干増加いたしました。

その結果、電線・ケーブル事業の売上高は、前年同期比13.4%増の142億9千1百万円となりました。

電子材料事業

当事業の主要製品である機能性フィルムについて、携帯電話向け特にスマートフォン向け等の需要が好調に推移し、その結果、電子材料事業の売上高は、49億5百万円となりました。

新規事業

当社グループの新規事業の中心であるフォトエレクトロニクス事業分野における市場の立ち上がりの遅れ等から、当事業部門の売上高は8千2百万円にとどまりました。

その他

株式会社タツタ環境分析センターにおける環境分析事業の売上が期後半に集中することから、当中間期の売上高は6億1千6百万円となりました。

国内景気の状態は、急速な円高や世界経済の減速から足踏み状態となっており、今後の見通しについても断言を許さない状況となる予想されます。このような中、電線業界においては、銅電線および光ファイバの需要についてはともに多くを望めず、その一方で原材料価格は比較的高値のまま推移すると予測される等、厳しい状況は継続するものと見込まれます。

当社グループとしては、このような環境下において、電線・ケーブル事業においては、一層の事業基盤の強化を図るべく、生産体制の効率化に取り組んでおります。販売面でも、産業用ロボット向け高力ケーブルの品揃えの充実やその他新規製品の開発等を進めており、一定の成果をあげつつあります。

また、電子材料事業において、機能性フィルムの旺盛な需要に対応して、新たな設備投資も含め一層の生産効率化を推進するとともに、新規商品の開発にも積極的に取り組んでおります。さらに、光部品事業については、フォトエレクトロニクス分野の事業化に鋭意取り組んでおり、特長ある独自技術の深化に努め、新規製品の開発と品揃えの充実を図っております。

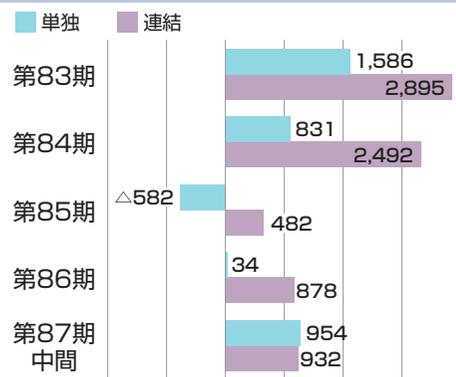
このような取り組みの中、当中間期における配当につきましては、1株当たり3円の配当を実施することといたしたく存じます。

株主各位の一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

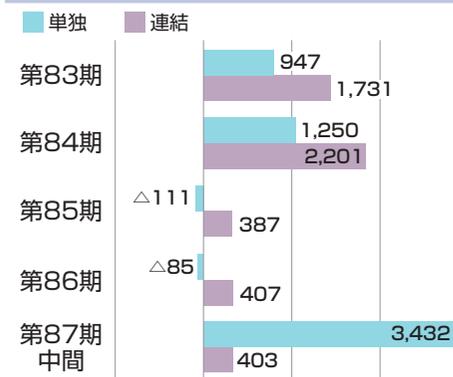
売上高 (単位: 百万円)



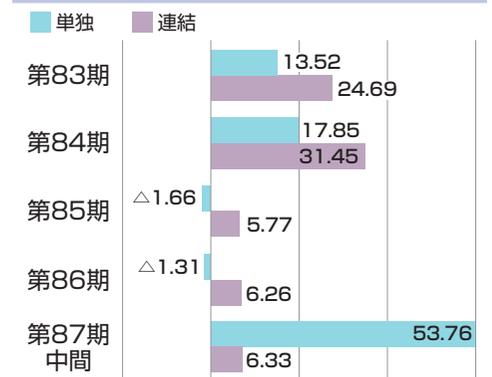
経常利益 (単位: 百万円)



中間(当期)純利益 (単位: 百万円)



1株当たり中間(当期)純利益 (単位: 円)



平成22年12月

財務諸表

中間連結財務諸表

■中間連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当中間期末	前期末
	(平成22年9月30日現在)	(平成22年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	23,330	22,500
固定資産	8,544	9,120
有形固定資産	6,668	6,981
無形固定資産	135	167
投資その他の資産	1,740	1,972
資産合計	31,875	31,621

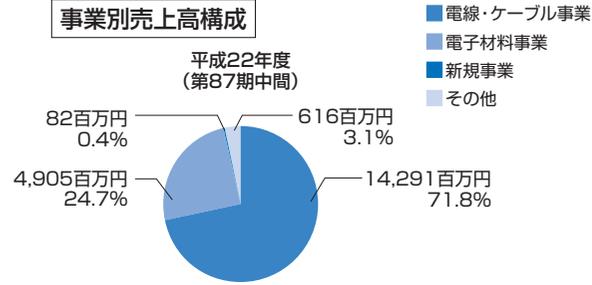
負債の部		
流動負債	5,343	4,058
固定負債	779	1,921
負債合計	6,123	5,980

純資産の部		
株主資本	25,644	25,503
資本金	6,676	6,676
資本剰余金	4,536	4,536
利益剰余金	16,006	15,857
自己株式	△ 1,575	△ 1,567
評価・換算差額等	108	137
その他有価証券評価差額金	108	137
純資産合計	25,752	25,640
負債・純資産合計	31,875	31,621

■中間連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)	(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)
売上高	19,885	16,452
売上原価	16,631	13,704
売上総利益	3,253	2,747
販売費及び一般管理費	2,349	2,393
営業利益	904	353
営業外収益	66	87
営業外費用	38	45
経常利益	932	395
特別利益	173	807
特別損失	225	558
税金等調整前中間純利益	880	644
法人税、住民税及び事業税	277	174
法人税等調整額	198	96
少数株主損益調整前中間純利益	403	—
中間純利益	403	374

事業別売上高構成



当中間期よりセグメントを変更いたしました。

平成21年度 (第86期中間)	平成22年度 (第87期中間)
電線・ケーブル事業	電線・ケーブル事業
電子材料・光部品他事業	電子材料事業
	新規事業
	その他

■中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)	(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,656	1,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,241	△ 1,256
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 430	△ 428
現金及び現金同等物の増減額	△ 14	△ 56
現金及び現金同等物の期首残高	356	510
現金及び現金同等物の中間期末残高	341	454

■中間連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成22年9月30日まで) (単位：百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成22年3月31日残高	6,676	4,536	15,857	△ 1,567	25,503	137	137	25,640
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 255		△ 255			△ 255
中間純利益			403		403			403
自己株式の取得				△ 7	△ 7			△ 7
自己株式の処分		△ 0		0	0			0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 29	△ 29	△ 29
中間連結会計期間中の変動額合計		△ 0	148	△ 7	140	△ 29	△ 29	111
平成22年9月30日残高	6,676	4,536	16,006	△ 1,575	25,644	108	108	25,752

中間単体財務諸表

■中間単体貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当中間期末	前期末
	(平成22年9月30日現在)	(平成22年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	22,282	19,136
固定資産	8,530	7,649
有形固定資産	6,193	4,799
無形固定資産	105	119
投資その他の資産	2,231	2,730
資産合計	30,813	26,786

負債の部		
流動負債	6,140	4,334
固定負債	603	1,525
負債合計	6,743	5,859

純資産の部		
株主資本	23,971	20,802
資本金	6,676	6,676
資本剰余金	4,726	4,726
利益剰余金	14,144	10,967
自己株式	△ 1,575	△ 1,567
評価・換算差額等	97	123
その他有価証券評価差額金	97	123
純資産合計	24,069	20,926

負債・純資産合計	30,813	26,786
----------	--------	--------

■中間単体損益計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)	(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)
売上高	18,853	12,026
売上原価	15,878	10,873
売上総利益	2,975	1,153
販売費及び一般管理費	2,073	1,303
営業利益又は営業損失(△)	901	△ 150
営業外収益	133	414
営業外費用	81	68
経常利益	953	196
特別利益	3,090	655
特別損失	207	554
税引前中間純利益	3,836	297
法人税、住民税及び事業税	277	△ 125
法人税等調整額	127	120
中間純利益	3,431	302

会社情報

会社概要

(平成22年9月30日現在)

- 社名 タツタ電線株式会社
- 本店所在地 大阪府東大阪市岩田町2丁目3番1号
- 設立年月日 昭和20年9月28日
- 資本金 6,676,227,664円
- 従業員 連結 592名
単体 436名
- 事業内容 電線・ケーブル、電線・ケーブル
付属品、電子材料（機能性フィルム、
導電性ペースト、ボンディングワイヤ、
防錆材）、機器システム製品（防災関連、
病院・薬局合理化関連）、光関連製品（
コネクタ端末加工、カブラ）の製造販売
及び環境分析事業等その他のサービス事業



本社・大阪工場



京都工場

役員

(平成22年9月30日現在)

- 代表取締役会長 藤江 修也
- 代表取締役社長 木村 政信
- 専務取締役 江角 健一
- 専務取締役 平井 洋行
- 常務取締役 橋本 和博
- 常務取締役 松本 一郎
- 取締役 北島 秀樹
- 取締役 檀上 芳郎
- 取締役 三村 弘治
- 取締役 門脇 信好
- 取締役 中野 紳一郎
- 取締役 高橋 靖彦
- 常勤監査 安藤 明彦
- 監査 住吉 彰
- 監査 村山 誠一

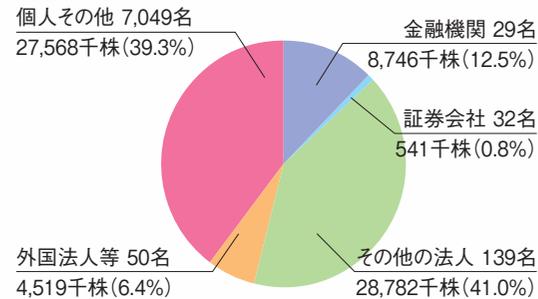
株式の状況

(平成22年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 156,693,000株
- 発行済株式の総数 70,156,394株
- 株主数 7,299名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
JXホールディングス株式会社	22,739	32.41
タツタ電線株式会社(自己株式)	6,349	9.05
住友金属鉱山株式会社	1,921	2.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,798	2.56
日本興亜損害保険株式会社	1,572	2.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,445	2.06
シービーエヌワイエフエフインターナショナル スモールキャップパリュウポトフォリオ	1,189	1.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,077	1.54
個人株主A	1,015	1.45
カセイバンクオーディナリアカウント	784	1.12

所有者別株式分布状況



ホームページ

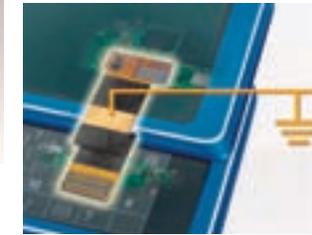


アドレス <http://www.tatsuta.co.jp>

TOPICS トピックス

FPC(フレキシブルプリント基板)向シールドフィルム グランド引出しフィルム「FGF-400」

～FPC用シールドフィルムの上からアースが自由に引き出せます～



FGF-400は、シールドフィルムの外側からグランド接続（アース取り）するための補助材です。シールドフィルムの任意の場所にグランド接続用の電極を形成することができるようになるため、様々なグランド設計に対して、柔軟に対応することが可能となりました。この特性を評価され、今回一部のスマートフォンタイプの携帯電話にも採用されることとなりました。

独自の「高力銅合金」を導体に採用したFA・ロボット用 「高力ケーブル」

「高力ケーブル」の導体に採用した「高力銅合金」は、無酸素銅をベースに微量の鉄、リンおよびインジウム等の特殊元素を添加した、高導電性で、引っ張り強さ・繰り返し曲げ強さに優れた銅合金です。

「高力ケーブル」は、一般的な電気用軟銅線やスズ系の合金線と比べ、耐屈曲性が格段に優れており、ロボット、工作機械等の複雑で過酷な動きが必要とされる使用環境や高速連続、長時間稼働等の使用条件下でその効果を発揮します。

絶縁材料・シース材料の組み合わせにより、即納対応可能な「スタンダード」タイプから、より一層過酷な環境下で耐屈曲性を発揮する「ハイグレード」タイプ、また特殊環境下での使用に対応した「カスタム」タイプを用意しておりますので、お客様の使用用途・環境等に合わせた最適なケーブルをご提案いたします。

